

第8号（令和7年度1号）

南栗遺跡 発掘だより

令和7年5月19日発行



◆令和7年度の発掘調査がはじまりました

令和4年度にはじまった発掘調査は4年目を迎えます。今年度は、島立地区に加え、和田地区の調査が新たに始まりました。調査は11月末日までを予定しています。

調査区内には危険な場所もありますので、許可なく立ち入らないようにお願いします。発掘の見学を希望する方は、事前にご連絡を下さい。

地域の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



令和7年度の発掘調査範囲

◆判明した集落の規模と時期

昨年度の調査では^{たてあなだてもの}竪穴建物^{あと}跡が107軒、^{ほったてはしらだてものあと}掘立柱建物跡が5棟みつけられました。

約40年前の長野自動車道の調査分を含めると竪穴建物跡軒数は520軒以上を数え、松本盆地最大級の古代遺跡であることが判明しました。

そしてこの集落は、古墳時代の終末期（約1300年前）から平安時代後期（約900年前）のおよそ400年にわたり営まれていたことが判明しました。



3区竪穴建物跡分布状況（四角い形の影が竪穴建物跡）

◆古代の竪穴建物跡の姿

古代の竪穴建物跡は地面を方形に掘り込んで壁と床を作り、床に柱を立て、茅のような植物の束を重ねて屋根を葺いたと考えられます。建物の大きさは1辺が5m前後のものが多いです。

竪穴建物跡からは土器の破片が出土します。1軒の建物跡から多い時には数百片も出土することがあります。破片は洗浄後に接合作業を行い、器の形を復元します。



発掘調査を終えた竪穴建物跡



竪穴建物跡から出土した土器の破片

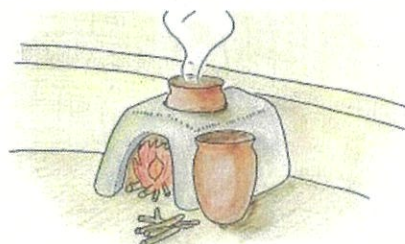


復元された竪穴建物跡
(立科町大庭遺跡)

ハケ岳旧石器研究グループ2010
『佐久の古代遺産図鑑』より

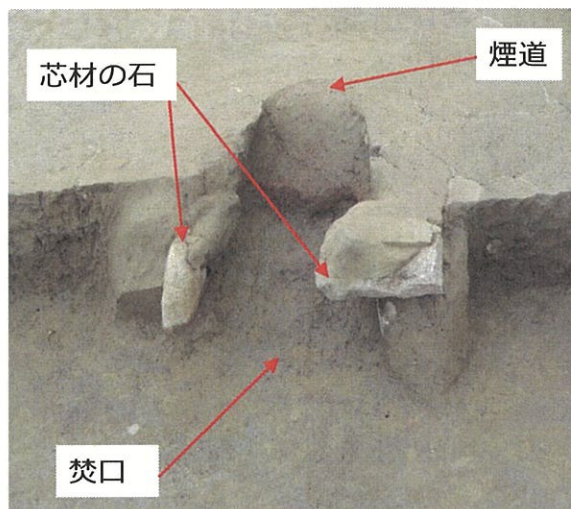
◆カマドとは？

竪穴建物跡の壁からはカマドが発見されました。カマドは、石などを芯材に粘土を貼り付け、壁と天井を作ります。天井に穴を開けて煮炊き用の甕を差し込み、手前の焚口から火を燃やし、煙は壁に掘られた穴を通り外に出る構造になっています。



カマドの復元図

長野県埋蔵文化財センター
2005『三角原遺跡』より



カマドの発掘調査状況

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4 TEL: 026-293-5926

MAIL: maibun@naganobunka.or.jp HP: <https://naganomaibun.or.jp>

担当: 廣田/大泰司/鈴木/二ノ宮

支援業務(株)シン技術コンサル: 松田/安生/重留

(株)島田組: 西尾/鍛冶屋/國分